

令和6年度 小平市立小平第四中学校 学校評価計画表

学校教育目標 心身共に健康で、豊かな知性と感性を備え、進んで社会に貢献する人間像を目標とし、その育成に努める。
 ○自分で考え進んで実践する人間 ○公共心に富み情操豊かな人間 ○勤労を尊び責任を重んじる人間 ○健康でたくましい人間

目指す学校像(ビジョン)
 【目指す学校像】 「安全・安心で、挨拶と笑顔があふれ、生徒と教職員、保護者、地域が力を合わせて創り上げる、チーム四中」 ①秩序と潤い ②いじめ根絶・学力・防災 ③伝統・創造・信頼
 【目指す児童・生徒像】 「自信と誇りをもち、仲間を大切に、社会に貢献する生徒」 ①基礎基本・自尊感情・主体的行動 ②他者理解・共生 ③道徳的な判断力・心情・実践力と態度
 【目指す教員像】 「率先して正しい姿を示し、生徒に寄り添い、共に成長し、よりよい教育を求め続ける教師」 ①共感的な姿勢・個に応じた指導 ②高い人権意識 ③保護者及び地域との連携

前年度までの学校経営上の成果と課題
 成果： 学力向上 GIGAスクールの推進 不登校支援・カルガモ教室の充実 特別支援の充実 よりよい学級づくり いじめ防止 地域人材の活用 防災学習
 課題： 学習者用端末の効果的活用 SDGs・ESDの推進 不登校支援・カルガモ教室の充実 特別支援の充実 ボランティア活動 地域連携 業務改善 人材育成

| 中期経営目標 | | 短期経営目標 | 具体的方策 | 取組指標 | 成果指標 |
|----------------------|--|---|---|---|--|
| GIGA 学力向上 スクール | 学習者用端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実践するとともに、個に応じた指導を充実し、学力の向上を図る。 | 学習者用端末及び授業支援システム、オンライン学習教材を積極的に活用し、授業だけでなく家庭学習や不登校生徒の楽手を支援する。 様々な学習機会を設定することにより、基礎学力の定着、学習意欲の向上、学習の習慣化を図る。 | GIGA推進委員会の授業実践に学び、全教員が学習者用端末及びプロイノットを活用した授業を行う。 学び直し教室で小学校算数の定着を図るとともに、英語を話すことに慣れさせる。放課後学習教室で主体的に学習に取り組ませる。 | 4 授業で学習者用端末を活用する教員80%以上 3 授業で学習者用端末を活用する教員70%以上80%未満 2 授業で学習者用端末を活用する教員60%以上70%未満 1 授業で学習者用端末を活用する教員60%未満 | 4 「端末を効果的に活用している」生徒の認識80%以上 3 「端末を効果的に活用している」生徒の認識70%以上80%未満 2 「端末を効果的に活用している」生徒の認識60%以上70%未満 1 「端末を効果的に活用している」生徒の認識60%未満 |
| | いじめ防止 | すべての子どもたちが、安心かつ安全に過ごせる学校生活を構築する。 | 全校でよりよい学級づくりに取り組むとともに、道徳教育を充実し、心の教育を推進する。「こいだら特別活動の日」の取組を充実する。 いじめを未然防止するとともに、いじめを見逃さない。生徒が主体的にいじめ防止に取り組む。 | 学級PRやエンカウンターを活用してよりよい学級をつくる。ローテーション道徳及び地域と連携し道徳授業地区公開講座を実施する。 いじめチェックとアンケートを学期に1回ずつ実施する。児童会・生徒会サミットの取組を効果的に活用する。hyper-QUを分析する。 | 4 教員の取組評価で肯定的回答80%以上 3 教員の取組評価で肯定的回答70%以上80%未満 2 教員の取組評価で肯定的回答60%以上70%未満 1 教員の取組評価で肯定的回答60%未満 |
| 多様な学びの場 | | 学校生活や学習に不安や苦手、困難がある生徒が自分に合った学びの場や学び方を見つけることができるようにする。 | 困っている生徒の居場所をつくり、在籍学級以外での学習を支援するとともに、不登校の防止や、学校復帰と教室復帰ができるようにする。 特別な支援を必要とする生徒が自己肯定感を高め、本来もっている自分の力を発揮し、自信をもって生活できるようにする。 | カルガモ教室において、SSTや道徳、ボランティア、作業療法、学び直し等のプログラムを設定し、支援を充実する。 研修会を実施して教員の理解を深めるとともに、連携型個別指導計画に基づいて、合理的配慮等の支援を充実する。 | 4 教員の取組評価で肯定的回答80%以上 3 教員の取組評価で肯定的回答70%以上80%未満 2 教員の取組評価で肯定的回答60%以上70%未満 1 教員の取組評価で肯定的回答60%未満 |
| | 働き方改革 | 教職員の勤務時間管理と健康保持を意識した働き方改革を推進する。 | 月2回以上の定時退勤を計画的に実践するとともに、月の時間外在校時間が45時間を超えないよう効率的に業務を行わせる。 SSSや学習補助員、学生ボランティア、PTA等を積極的に活用し、事務的な業務や行事の運営、授業以外の学習支援等を軽減する。 | 出退勤システムを活用して勤務時間を適正に管理し、在校時間が長い教職員の心と体をサポートする。 印刷や配布等の作業をSSSIに依頼する。学習支援に学習補助員やボランティアを活用する。行事運営の補助をPTAに依頼する。 | 4 月2回以上の定時退勤をした教職員80%以上 3 月2回以上の定時退勤をした教職員70%以上80%未満 2 月2回以上の定時退勤をした教職員60%以上70%未満 1 月2回以上の定時退勤をした教職員60%未満 |
| コミュニティスクール | | コミュニティスクールとして学校運営に地域の声を取り入れながら、地域と一体となった特色ある学校づくりを推進する。 | 来年度に創立60周年を迎えるにあたり、これから先10年を見据えて、目指す生徒像及び学校像を明らかにする。 学校経営協議会及び地域教育コーディネーターを核として、青少年、自治会、大学、関係機関など、地域と連携した活動を推進する。 | 教職員及び生徒、地域の意見を取り入れながら、生徒像と学校像について検討を重ね、学校教育目標を改定し、校訓を制定する。 地域学校協働活動を推進し、学習補助、学習教室、職業講話、防災学習、ボランティア活動等を実施する。 | 4 教員の取組評価で肯定的回答80%以上 3 教員の取組評価で肯定的回答70%以上80%未満 2 教員の取組評価で肯定的回答60%以上70%未満 1 教員の取組評価で肯定的回答60%未満 |
| | | | | 4 教員の取組評価で肯定的回答80%以上 3 教員の取組評価で肯定的回答70%以上80%未満 2 教員の取組評価で肯定的回答60%以上70%未満 1 教員の取組評価で肯定的回答60%未満 | 4 「地域の人材や教育資源を活用できた」教員の認識80%以上 3 「地域の人材や教育資源を活用できた」教員の認識70%以上80%未満 2 「地域の人材や教育資源を活用できた」教員の認識60%以上70%未満 1 「地域の人材や教育資源を活用できた」教員の認識60%未満 |